

市長提案説明要旨

平成29年6月8日

本日ここに平成29年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

先月18日、日本サッカー協会の理事会において、2020年東京オリンピックのサッカー会場に、カシマサッカースタジアムの追加を求めることが決定され、来月に開催予定の国際オリンピック委員会の理事会で正式に承認される見通しとの大変うれしい知らせが入ってまいりました。

国際オリンピック委員会での一日も早い正式決定を待つばかりであります。2002 FIFAワールドカップ以来の世界的なビッグイベントであり、市の将来につながる絶好の機会と捉え、市民の皆様と一丸となって、世界にこの鹿嶋を発信していきたいと考えております。

ワールドカップでは、ボランティア活動をはじめ、国際交流の推進や花いっぱい運動などの街並み景観の整備など、市民、事業者、各種団体、行政が一体となり取り組んだホスピタリティ（おもてなし）は、大変高い評価を受けました。

こうした貴重な資産や教訓などを生かし、関係機関と連携を図りながら、万全の準備を進めてまいりたいと考えております。

（国内情勢等）

次に、国内の社会経済情勢であります。

内閣府の5月の月例経済報告によりますと、設備投資など企業活動は好調に推移しているが、雇用や所得の改善に比べると、個人消費の持ち直しのペースが鈍いことを踏まえ、景気の基調判断を「一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」として、6カ月連続で据え置きました。

先行きについては、海外経済の不確実性などに留意が必要なものの、雇用・所得環境の改善傾向が続く中で、緩やかに回復していくことが期待されるとしております。

こうした中、政府においては、平成28年度補正予算及び平成29年度予算を円滑かつ着実に実施するなど、好調な企業収益を投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善などにつなげ、地域や中小規模事業者も含めた経済の好循環の拡大を図りたいとしております。

本市においても、平成28年度の繰越事業及び平成29年度事業を着実に推進し、地域経済の活性化が図られるよう取り組んでまいります。

《事業の概要等》

続いて、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

(地方創生推進プロジェクト)

本市においては、将来のまちづくりを展望し、少子高齢化の進行や人口減少など直面する様々な課題に対して、移住・定住の促進をはじめ、結婚や子育ての支援などによる少子化対策など積極的に取り組みを進めております。

こうした中、先月8日、市内の全ての金融機関と「若年世帯移住・定住促進事業に関する包括連携協定」を締結いたしました。この協定の締結により、各金融機関において市が進める事業のPRや、一部の金融機関では、市の事業に合わせた住宅ローンなどの優遇金利の取り扱いを始めております。

充実した子育て支援や教育環境、豊かな歴史、スポーツ文化など本市の魅力を積極的に発信するとともに、若年世帯に対する住宅取得助成などの取り組みを進め、移住・定住を促進してまいります。

(スポーツでつながるまちづくり)

新日鐵住金鹿島硬式野球部（カシマ・ブルー・ウィングス）は、日立市で開催された第88回都市対抗野球北関東大会を見事な戦いで勝ち抜き、北関東第1代表として、2年連続、17度目の本大会出場が決定しました。

本大会は、東京ドームで7月14日から12日間にわたり熱戦が繰り広げられますが、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮して黒獅子旗を獲得し、最高の瞬間を迎えられますよう、市民の皆様ととともに、精一杯の応援をさせていただきます。

一方、我らが鹿島アントラーズは、Jリーグとアジアチャンピオンズリーグを並行して戦う過密日程の中、疲労の蓄積と負傷者続出の影響もあり、王者本来の力を発揮できていない状況にあります。

こうした中、先月31日の石井監督の突然の退任に、多くの市民やサポーターは、大変な驚きと戸惑いを抱かれたことと思います。

石井監督は、約2年間の在任期間において、何よりもチームワークを大切にし、昨年度のJ1リーグ年間王者やクラブワールドカップ準優勝など数々のタイトルを獲得するなど、鹿島アントラーズの歴史に輝かしい1ページを刻むとともに、多くの市民に大きな感動と元気を与えていただきました。この功績に対し、市民を代表して感謝申し上げます。

大岩新監督のもと、心機一転して一戦一戦を大事にしながら、栄光に満ちた常勝軍団の復活と巻き返しを期待しております。

市民の皆様には、カシマサッカースタジアムでの熱い声援をお願いいたします。

アントラーズホームタウン協議会が10周年を迎えるに当たり、4月30日のサガン鳥栖との試合前には、恒例となった「ファミリーJoin Day」とともに、鹿行の全市長で、「これからも地域やサポーターの皆様とともに、全力で鹿島アントラーズをバックアップしていく」と応援宣言も行いました。

また、本市においては、鹿島アントラーズのエンブレムを基調としたデザインの下水道マンホールの蓋を作成し、アントラーズクラブハウス、市役所、カシマサッカースタジアムへの設置や市民への缶バッジの無料配布も行いました。

今後も、鹿行各市や関係機関と連携を図りながら、様々な場面を通じて、地域を挙げて鹿島アントラーズを盛り上げ、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

(未来を創るひとづくり・まちづくり)

4月24日から、子どもが病気または病気の回復期にあり、保護者の就労などにより家庭で看ることができない場合に、一時的にお預かりする「病児保育事業」を開始いたしました。

運営を医療法人恵育会に委託し、専任の看護師と保育士を配置しておりますので、安心してご利用いただけます。

待機児童対策については、民間保育所を含めて保育定員の拡大に努め、平成27年、28年に続き、本年4月においても待機児童ゼロを達成することができました。今後、随時の保育申し込みなどが見込まれますが、民間保育所の保育室増築に対する助成などの保育所緊急整備事業に取り組み、引き続き、待機児童の解消に努めてまいります。

子育てに関する各種手続きやサービス、イベント、地域の子育て支援センターなどの様々な情報をわかりやすく提供する子育て支援サイト「かしま子育てねっと」は、平成24年3月の開設以来、月平均にすると約4万5千件のアクセスがあり、多くの皆様にご活用いただいております。

今年度は、本市の充実した子育て支援や魅力を一層知っていただけるよう、リニューアルをし、情報発信の充実に努めてまいります。

引き続き、「子育てするなら鹿嶋市で」をスローガンとして、妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を図り、安心して子どもを産み育てやすい環境を整備してまいります。

小中学校の9年間の連続した学びの中で、確かな学力と豊かな人間性の育成が期待される小中一貫教育については、平成30年4月の高松地区での開校に向け、教職員を中心に、カリキュラム編成の課題や展望について具体的かつ詳細な協議を進めております。

引き続き、学校やP T A、地域と連携しながら、整備計画を策定し、本市の新しい教育スタイルとなる小中一貫教育のパイロット校として円滑にスタートできるよう準備を進めてまいります。

国際化が進展する中、異文化への理解や異なる文化を持つ人々と協調していく態度などを育成することは、子どもたちにとって極めて重要なことと考えております。

中学生国際交流事業として、今年度も、本市と韓国・西帰浦市の中学2年生18名が、互いにホームステイ交流を行います。今月10日から13日まで西帰浦市交流団が本市を訪問し、ホストファミリー宅でのホームステイや鹿野中学校での交流を通して、お互いの理解を深めてまいります。

また、異文化体験事業として、昨年度に引き続き、英国留学と同様な環境で英語レッスンやアクティビティを体験できるイングリッシュサマーキャンプを実施いたします。

昨年度参加した生徒からは、「英語を勉強したい」、「外国文化をもっと知りたい」といった意欲的な感想が寄せられ、今年度は、昨年度より1日増やし、8月20日から23日まで3泊4日の日程で、中学3年生30名を福島県にある体験型英語研修施設に派遣いたします。

さらに、教育センターでは、先月28日から全9回の予定で、中学生がALTとの英語でのフリートークを通して、楽しみながら英会話を学べるイングリッシュ・ラウンジを無料で開催しております。

こうした貴重な体験の積み重ねが、広い視野と国際感覚を持った世界に通じる「鹿嶋っ子」の育成につながっていくものと考えております。

子ども達が自ら課題の発見と解決を主体的に学ぶアクティブ・ラーニングを導入し今年で4年目となりますが、昨年度の「全国学力・学習状況調査結果」において、市内小中学校の平均が全国平均及び茨城県平均を上回るなど、着実に成果が表れてきていると捉えております。

アクティブ・ラーニングの視点による授業改善プロジェクトは、昨年度、全ての小中学校に対する研究指定が終了いたしました。今年度は、新しい学習指導要領を踏まえ、平井小学校、三笠小学校、鹿島中学校、大野中学校、鹿野中学校の5校を重点推進校に指定し、更なるレベルアップを図ってまいります。

家庭は子どもの健やかな育ちの基盤であります。近年、核家族化や地域とのつながりの希薄化などによる家庭の教育力低下や孤立化が懸念されております。

本市においては、今年度、地域の人材を活用した家庭教育支援チームを設置し、家庭状況などを踏まえた支援計画の作成や家庭訪問の実施など、組織的かつ柔軟に子どもの育ちを支えていく訪問型の家庭教育支援を行ってまいります。

学校や家庭、地域などと連携しながら、家庭の教育力向上に努めてまいります。

(地域資源を生かしたまちづくり)

今月4日、第72代横綱稀勢の里関が鹿島神宮で奉納土俵入りを披露し、市内外から大勢のファンが詰めかけ、大変な賑わいを見せておりました。その様子は、テレビや新聞などで大きく報道され、本市にとっても大きなPR効果があったものと考えております。

こうしたことを踏まえ、今後も、鹿島神宮をはじめとした悠久の歴史の魅力を生かし、賑わいづくりを創出してまいります。

地方創生先行型交付金の採択を受けて整備したウォーキングコース「鹿嶋神の道」には、市内外から多くの皆様が集い交流し、鹿嶋の悠久の歴史や豊かな自然を堪能されております。

先月21日、3コース目となる「降臨の里」がオープンし、これを記念した「第4回鹿嶋神の道フェスタ」がスタッフを含めて約150人の参加のもと開催されました。

まちづくり市民センターを発着点とし、神向寺や潮社（いたのやしろ）などの社寺や、末無川や鬼塚などの鹿島文化財カルタのゆかりの地、東の一之鳥居などを巡るもので、途中、武甕槌大神が降臨されたといわれる明石の浜なども歩く、主に波野地区を周回する全長約12キロのコースです。

破魔矢型の道しるべと4カ国語の案内板が設置してありますので、是非、鹿嶋の散策を楽しんでいただきたいと思っております。

鹿島港の整備及び利活用の促進については、継続して、関係機関に対する要望活動などを積極的に行っております。

4月10日には、議会とともに、石井国土交通大臣を訪問し、新神宮橋及び国道51号鹿嶋バイパスの4車線化の整備に加え、外港地区国際物流ターミナルなどの整備促進について要望活動を行いました。

先月12日には、国土交通省鹿島港湾・空港整備事務所から、今年度の港湾整備事業費が前年度比3億86百万円増の69億28百万円の予算措置がされ、航行船舶の安全性の向上などを図るため、引き続き、南防波堤の延伸や航路・泊地の浚渫などを実施するとの説明を受けたところであります。

また、先月9日には、鹿島バルクターミナル株式会社のコールセンター（貯炭場）の起工式が外港公共埠頭で行なわれ、年間約24万トンの石炭を取り扱う施設として、平成30年5月の運営開始の見込みとなっております。

今後も、鹿島港が安全で使いやすい港となるよう、港湾施設の整備促進について関係機関へ強く要望するとともに、外港公共埠頭を利活用する企業の誘致に向けて、ポートセールスを推進してまいります。

今月17日、2002年ワールドカップ開催を契機に始まった花いっぱい運動が、国道51号バイパス及び124号バイパスの沿道花壇で開催されます。

市民ボランティアをはじめ、事業者や各種団体など多くの皆様のご参加をいただき、初夏の風物詩とも言える光景となっております。

花いっぱい運動を通して、みどり豊かで潤いのあるまちづくりを進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

（市民と共に創るまちづくり）

少子高齢化の進展や地方創生などの直面する難題を解決し、未来を展望したまちづくりを行っていくためには、市民の皆様とともに知恵を出し合い、共に実践していく共創の取り組みが重要と考えております。

私が市長就任以来、市民の皆様と直接膝を交えて、意見交換を行ってきた車座懇談会は、101地区全てを廻り終え、地区の課題や市政に対するご提案など生の声を伺い、未来のまちづくりなどについて語り合うことができました。

今年度は、行政区をはじめ市民グループや各種団体を対象に、場所、日時など市民の皆様のご希望に応じて懇談をまいります。

（住んで安心のまちづくり）

環境サポーターの皆様には、日ごろからの巡回活動など不法投棄の監視に当たっていただき、感謝申し上げます。

今月4日には、約400人もの環境サポーターが市役所に結集し、第13回鹿嶋市環境サポーター統一行動が行われました。

不法投棄の撲滅を訴える環境サポーターの皆様の熱い思いを目の当たりにし、この豊かな環境を次の世代に引き継いでいくことが私たちの責務であると改めて痛感したところであります。

また、残土の無許可埋立てなどについては、平成25年度に5件の事例が発生しましたが、平成27年度以降は発生しておらず、今後も地域の皆様のご協力をいただきながら、監視及び指導の徹底を図ってまいります。

地球温暖化対策の国際的枠組みであるパリ協定を踏まえ、我が国の温室効果ガスの削減目標を示した「日本の約束草案」では、市の業務など「その他業務部門」の二酸化炭素排出量の削減目標を、平成42年度までに平成25年度比マイナス39.8%としております。

本市では、クールビズの実施やグリーンカーテンの設置、節電などによる省エネルギーの推進、風力発電施設の誘致や太陽光発電施設の導入など自然エネルギーの活用を図ってまいりました。

今年度は、市本庁舎及び大野ふれあいセンターの照明設備をLED化するとともに、防犯灯5,639基を2カ年かけてLED照明に変換するため、環境省の

補助事業申請を行ったところであります。

市の事務事業における地球温暖化対策実行計画を今年度に策定し、積極的に省エネルギーの取り組みなどを推進してまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げました。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が2件、条例関係議案が3件、土地関係議案が2件、道路認定議案が1件、契約等関係議案が6件、合わせて14件であります。

まず、予算関係議案は、平成29年度の一般会計と国民健康保険特別会計の補正予算であります。

一般会計補正予算については、公共交通対策事業、市民参加のまちづくり事業、防犯灯管理経費、保健衛生事務経費、水産振興対策経費を計上しております。

国民健康保険特別会計補正予算については、前期高齢者納付金等を計上しております。

条例関係議案は、いずれも改正するものであり、「鹿嶋市保育所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」などであります。

土地関係議案は、「新たに生じた土地の確認について」などあります。

道路認定議案は、市道2路線を認定するものであります。

契約等関係議案は、「鹿嶋市公共下水道根幹的施設の改築工事委託に関する基本協定締結について」などあります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。